

## ウニタ書店、半世紀

代表・林 鈺治

全国の大学で学園闘争が野火のごとく広がっていた1969年、新今池ビル2階でウニタ書店は産声を上げました。10坪ほどの小さなスペースに新左翼党派機関誌や様々な運動体の出版物ミニコミ等を並べ、当時の全共闘運動に寄り添う姿勢を明確した書店でした。因みに店名は、東京・神田で新左翼系書店として有名だったウニタ書舗から許諾を得てつけたものでした。当時は東京・吉祥寺、大阪、広島、ウニタをはじめ、京都や仙台にも新左翼系書店が存在していた時代でした。

しかし、70年安保闘争後は、セクト間の抗争が頻発し、同志「粛清」が明らかになった連合赤軍事件を境に新左翼運動は急速に退潮していき、ウニタを取り巻く環境も厳しくなりました。

そうした中、開業から7年目に初代の経営者から筆者も加わっていたグループが引き継いだのですが、その際、ビル側の都合で同じ階の3倍強のスペースに移ることとなり、それまでの機関誌・ミニコミ中心から、人文・社会科学書籍をそろえた本格的な専門書店として再出発することになりました。

時代は経済成長を謳歌していましたが、成田空港建設反対闘争、沖縄基地闘争や水俣病告発運動など社会的矛盾を正そうとする動きが続く中で、それを意識した棚揃えを心がけてきました。とはいえ、経営的には低迷から抜け出せない状況が続きました。

そして、2001年11月、遂に経営危機が訪れました。一時は倒産も覚悟しなければならぬ程でしたが、予想もなかった多くの方々から支援をいただき、存続することができました。それから20年が経過しましたが、感謝の気持ちは今も変わりません。書店業界が縮小傾向にある今日、人文・社会科学書籍はますます片隅に追いやられています。ブレイクすることなく、専門書店として継続していく所存です。一昨年の8月に、旧店舗から今池スタービル1階の新舗に移転しました。やや狭くはなりましたが、コンパクトで探しやすくなったという意見もいただいています。ミニシアターとして有名な名古屋シネマテークと同じビルということもあってか、若い方々の来店も多くなりました。初心を忘れることなく、

半世紀にわたる歴史を、更に延ばしていきたいと思えます。

以下、最近のおすすめ本を何冊か紹介します。

### ●「リニア新幹線と南海トラフ巨大地震」

(石橋克彦・著、集英社新書、840円)

デジタル化が進み、テレワークも珍しくなくなった今日、速さだけを追求するリニア新幹線は時代錯誤の計画であるばかりか、南アルプストンネル等が活断層を貫くことで、近い将来に予想される巨大地震によって、甚大な被害が発生することが危惧されている。地震学者の著者が科学的データをもとに、計画の中止を強く求めている。

### ●「ミャンマー政変」

(北川成史・著、ちくま新書、840円)

今年2月に国軍がクーデターによって権力を奪い取ったミャンマーでは、半年以上たった今も、NDL政権幹部を拘束し、抗議する民衆に対して暴力的な弾圧を続けている。

特派員として現地取材をしてきた記者が、ロヒンギヤなど少数民族問題を抱える中での民衆の粘り強い抵抗の深層を明らかにしている。

### ●「台湾、あるいは孤立無援の島の思想」

(呉叡人・著、みすず書房、4950円)

外部からの支配を受け続けてきた台湾は、民衆の粘り強い闘いによって、今日の民主主義体制を築き上げてきた。しかし、国際社会ではいまだ国家として認知されていない。構造的に賤民(パリア)であり、孤立無縁の境遇からの脱出を探ろうとする、持続的な思索の集大成の書。

人文書籍ウニタ書店

<https://book-store-2338.business.site/>

名古屋市千種区今池 1-6-13 今池スタービル 1F

